

# 緑化だより

No.157 令和2年1・2月合併号



ネズミノオゴケ

- 季節の花(ヒカゲノカズラ)
- 昆虫の話(みんなで冬眠・ヨコヅナサシガメ)
- 小さな世界こけ  
(コケが観察できる場所(3))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

新年は1月4日(金)より開園します

ryokka 緑化センター  
**広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園**  
〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>

E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)



# 季節の花

## ヒカゲノカズラ

「齋串(いぐし)立て 神酒(みわ)すゑ奉る(まつ)る 祝部(はふりへ)が  
うずの玉(たま)かげ見ればともしも」  
よみ人知らず 万葉集 巻13:3229

これを訳しますと

(神前に玉串を立てて神酒を供え、神官たちの髪に挿した髪飾りやヒカゲノカズラを見ると、厳粛な気分になります。)

ここでの神酒は奈良の三輪神社を指し拝殿に酒を奉納する時の神官たちの頭上に結び飾られているヒカゲノカズラを見れば見るほど神々しいものと詠われています。

ヒカゲノカズラは、ヒカゲノカズラ科で常緑性のシダ植物です。北海道～九州まで分布しています。和名は「日陰の葛」ですが、むしろ日当たりのよい山麓を好み、スギの葉のような形状で茎は地を這って行きます。別名カミダスキです。

4億年前に陸上に現れた古代植物です。茎を切り取っても長い間、鮮緑色を保っているため、古くから清浄な植物、霊力のある植物とされ、髪飾りや、神事を司る時の襷(たすき)に用いられました。

古事記「天の岩戸の伝説」によると、天照大神(あまてらすおおかみ)が天の岩屋戸に隠れてしまわれ、この世が暗くなってしまいました。そこで、ヒカゲノカズラを襷(たすき)にかけた天宇受売命(あめのうずめのみこと)が乱舞して神様を慰めたところ、岩屋戸から神がでてこられ再びこの世は明るくなったことに因み、正月飾りとしても長く大切にされてきました。

今年の5月1日新元号が平成から令和となりました。

天皇の皇位継承のための宮中祭祀が行われ新天皇が即位されました。11月には平安時代からのしきたりに乗っ取り、大嘗祭(だいじょうさい)といわれる一世一代の儀式が行われました。天皇、皇后が白装束で悠紀殿へ向かわれる時、お付きの神官たちの烏帽子にはヒカゲノカズラが巻かれ、厳粛な祭祀が行われました。

又、ヒカゲノカズラは金魚や鯉が産卵する藻場としても使われ、胞子は「石松子」といわれ、薬や花粉の増量材に混ぜて受粉の時に使われている有用な植物です。(上村)



ヒカゲノカズラ



ヒカゲノカズラで飾られた烏帽子姿

# 昆虫の話

## みんなで冬眠・ヨコヅナサシガメ

冬に入ると、ほとんどの昆虫は冬眠に入ります。そのため、野山で昆虫を観察する際には虫たちが隠れている場所を見つけなければなりません。そんな時おすすめの場所が樹木にかけてあるネームプレートの裏です。ネームプレートと木の隙間では、様々な昆虫が冬眠

しています。特によく見かけるのがカメムシの仲間です。その中でもひととき目立つのが大きな群れを作って越冬しているヨコヅナサシガメの幼虫です。

ヨコヅナサシガメは変わった姿をした昆虫で、頭が細く突き出し、体は黒くツヤがあり、胸とお尻に赤い模様が入ります。体の側面は反り返り、白い模様が規則正しく並ぶのでピアノの鍵盤のようです。肉食性で、とがった口で他の昆虫を刺し、体液を吸ってしまいます。そのため刺すカメムシ、サシガメと名付けられました。成虫は日本で見られるサシガメの中でも特に大きい横綱級です。樹木につくガの幼虫等を好んで食べるため、それらの虫が多くつく桜の木でよく見かけます。そのため、ケムシだらけになった桜の木にとっては救世主になります。

ヨコヅナサシガメは本来、日本にいた虫ではありません。中国や東南アジアに住んでいたものが、貨物について侵入してきたと考えられています。暖かい地域の昆虫のため冬は苦手で、寒さが厳しくなると樹皮の隙間等に入って集団で冬越しします。樹木にかけてあるネームプレートの裏は風雪をしのげるためよく越冬場所として利用されます。緑化センターや森林公園に来る機会があれば、ぜひネームプレートの裏を覗いてみてください。(市森林公園こんちゅう館 逸見)



越冬中のヨコヅナサシガメの幼虫



ヨコヅナサシガメ

## 小さな世界こけ

### コケが観察できる場所(3)

入口ゲートからの上り坂はやや乾燥しているため、種類は限られますが、林内の樹の根元や大きな石にはホソバオキナゴケ、タチゴケ、トヤマシノブゴケなどが見られます。

しばらく進んで、道幅の広い、カーブミラー付近を観察しましょう。その右手山ぎわに、濃い緑色のオオスギゴケのかたまりがあります。その中に混生して、セン類で黄緑色のタマゴケが見られます。

タマゴケは、水のしみで育ち、明るい山肌では大きな群落を作りますが、やや乾燥気味の斜面でも見られることがあります。一見、スギゴケに似ていますが、スギゴケは緑色が濃く硬い感じで、乾燥すると葉は茎に接着します。それに比べタマゴケは、明るい緑色で細く柔らかな葉で、乾燥すると巻く特徴があります。

1月頃、胞子体ができ始め、蒴は針の先のように尖っていますが、3月になると丸くふくらみ、グリーンの真珠のようです。3月下旬、桜が咲き始める頃、蒴歯は茶色くなり目玉のように見えます。この頃の胞子体は「目玉おやじみたい」と人気です。(山根)



タマゴケ

# 研修会のご案内

- 1月 7日(火) 『春の七草、学んで試食』  
七草について学び、七草粥を試食しよう  
※要予約 (先着 30名)、無料  
10:00～12:00 学習室 集合  
講師：緑花文化士  
横山 直江
- 1月 22日(水) 『なめこ植菌教室』  
植菌体験して家庭で栽培しよう  
※要予約 (30名)、材料費 700円  
10:00～12:00 学習室 集合  
講師：日本きのこセンター  
三次支所長  
影井 和男
- 1月 29日(水) 『針葉樹の見分け方』  
～コケ・シダ植物から裸子植物へ～  
室内で実物の葉っぱを見て学ぼう  
※ 自由参加・無料、ルーペ持参  
10:00～12:00 学習室 集合  
講師：広島県文化財保護審議会委員  
(植物生態学) 吉野 由紀夫
- 2月 1日(土) 『節分草寄植え教室』  
節分草と雪割草等の寄植え  
※要予約 (先着 30名)、材料費 1,500円  
10:00～12:00 学習室 集合  
講師：森林インストラクター  
長井 稔
- 2月 23日(日) 『第1回ジャンボ椎茸植菌教室』  
植菌を体験し、家庭で栽培しよう  
※ 要予約 (先着 30名)、材料費 800円 (1/4～予約開始)  
第1回、第2回の両方に参加することはできません  
10:00～12:00 学習室 集合  
講師：日本きのこセンター  
三次支所長  
影井 和男
- 2月 27日(木) 『第2回ジャンボ椎茸植菌教室』  
植菌を体験し、家庭で栽培しよう  
※ 要予約 (先着 30名)、材料費 800円 (1/4～予約開始)  
第1回、第2回の両方に参加することはできません  
10:00～12:00 学習室 集合  
講師：日本きのこセンター  
三次支所長  
影井 和男

## ☆お知らせ・ご案内☆

- ・年始の休園日は1月1日(水)～1月3日(金)です。
- ・合格祈願「やまこうばし」のお守り  
管理事務所にて1人1枚、無料



合格祈願「やまこうばし」のお守り

## ◎ 展示会

場所:レストハウス  
(ガラスケース展示)

- ・モーモーアート紙粘土作品展 ～1月26日(日)
- (ボード展示)
- ・第3回ひろしま遊学の森「四季の移ろい」  
写真コンテスト展 ～1月26日(日)
- ・緑化ポスター原画コンクール入賞作品展  
2月1日(土)～3月1日(日)



「モーモーアート紙粘土作品展」より

## ～ 森林公園 イベント情報 ～

- ・1月5日(日) 10:00～14:00  
年明けうどん  
(芝生広場 休憩所) 300円/杯 先着300食
- ・1月18日(土) 10:00～12:00 (雨天の場合1/19(日)に順延)  
お餅をついてぜんざいを食べよう  
(芝生広場 休憩所) 無料 先着300人



「緑化ポスター原画コンクール  
入賞作品展」より